

うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

こうがくねん む
高学年向け 2025年 冬号



発行：時津町立時津図書館



「アイとムリ」

エガーズ//作 ショーン・ハリス//ヨハネスの絵
代田 亜香子//訳 (小学館)

公園で暮らす犬のヨハネスは、目に見えないくらい遠く走ることができるため、この公園での出来事を見張って報告する“アイ(目)”の役割を担っている。そんなヨハネスは、ある日見た“四角形”にとても興味をひかれる。やがて、ヨハネスは他の動物たちとある計画をたて、実行しようとする。アメリカで児童文学賞を受賞した注目の一冊。

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく(家読)」です。難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「大谷翔平特集

世界を目指すみんなの教科書

repicbook 編刊 (repicbook)

今年もMVPを受賞した大谷選手は、みんなのあこがれの的。野球はもちろん、人としても、誠実で優しくて、笑顔が素敵なお兄さん。そんな大谷選手だけど、少年時代はみんなと同じ、普通の小学生だった。ただ、ちょっとだけ大きくて、ちょっとだけ運動ができた。それが、どうやってメジャーリーグにいって、これほどまでの偉大な選手になったのか。大谷選手の少年時代をのぞいてみよう。



「願いがかなうふしぎな日記 [4]」

本田 有明//著 (PHP研究所)

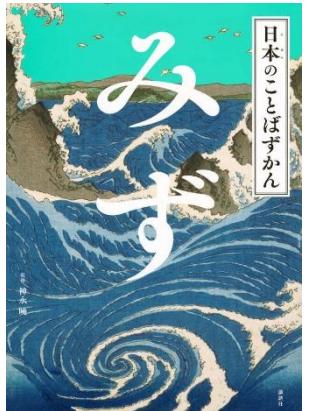
小学6年生の光平は、冬休みから卒業までカウントダウンしながら日記をつけることにした。クラスで変なあだ名をつけられている望月くんのことや、入院した担任の先生のことを書きながら、その日記に目標も書き始める。すると、日記にかいたことが次々とかなっていく。日記を書いて成長していく少年をえがいたシリーズの4作目。



「きたきつねとはるのいのち」

手島 圭三郎//絵 文 (絵本塾出版)

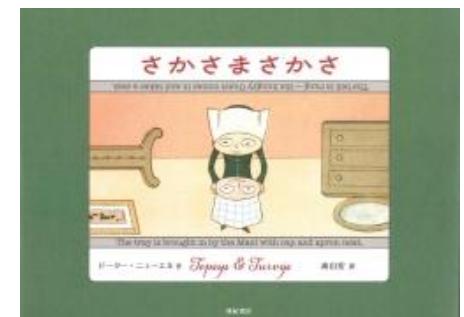
北海道の雪山にはきたきつねをはじめとした、多様な動物たちが暮らしています。しかし、彼らにとって「ふゆ」を生き抜くのは、簡単なことではありません。獲物を追ったり、追われたりしながら、彼らは懸命に春まで生き抜こうとするのです。雄大な自然の中に生きる命の尊さを感じられる絵本です。



「日本のことばずかん みず」

神永 瞽//監修 (講談社)

チョロチョロ、ザーザー、ザブーン…。日本語には水の様子を表す表現がいろいろあります。水にまつわる言葉は他にもたくさん。川や海など、豊かな自然に囲まれた国だからこそかもしれませんね。身近にある、水に関する言葉を探してみましょう。



「さかさまさかさ」

ピーター・ニューエル//作 高山 宏//訳
(ア紀書房)

本をひっくり返すとあら不思議。同じ絵なのに、さっきまでと違った絵に見える! 絵をひっくり返しただけなのに、人の顔の表情が変わったり、別の生き物になったり。アメリカの作家ピーター・ニューエルによって約130年前にかかれた想像力を育むユニークな絵本です。